

高瀬神社 社報

越中一宮

第39号

平成25年9月13日

越中一宮 高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部スタジオ

社頭講話

「伝承と伝誦」

宮司 藤井 秀弘

八月も下旬になると朝晩涼しくなり、私の部屋の窓を開けると涼しい風が入ってくるようになり、読書の秋になったと机に向かい、たまたまそこにあった国語辞典を開いたり閉じたりしていたところ、不意に

「伝承」と「伝誦」という語句が目について、我田引水、自分勝手な思いが湧いてきたので少し紹介します。

この辞典によれば「伝承」とは「ある社会や集団のしきたりや信仰、伝説等を受け継いで後世へ伝えてゆくこと」なのだそうです。また、「伝誦」とは「口から口へ唱え伝えること。伝誦歌謡」と記載されており、このことから連想したのが、私の住む町から国道一五六号線を岐阜方面に向かって約一時間行くと到着する世界遺産となった合掌集落の越中五箇山と飛騨白川郷

のことです。この村々の集落には多く民謡が伝誦されており、秋になると子供から大人まで誦された民謡を歌い、踊る発表会が開催されています。

「伝誦」として、民謡が口から口へと伝えられ、それと共に踊りも伝えられています。この踊りは、ただ楽しいだけの踊りではなく、「伝承」として深い祈りと感謝の心が形になっていきます。それは豊作への祈りであり、家族の繁栄であり、社会の安全・平和への願いであり、祈りなのです。また、祖先と神々への感謝でもあると思います。伝承と伝誦は祖先が歩いた記録であり、生活の智慧ではないかと思えます。長い時間をかけて現代まで受け継いできたこれらのことを大切にして、更に後世まで伝えるための努力をする。とは今を生きる者の責任であり

ましよう。古いものを価値のないものとして切り捨ててしまうことは全く愚かなことだと考えます。

今年の秋に行われる伊勢神宮の「式年遷宮」は二十年毎に斎行され、千年を越える歳月を経て伝承されています。ローマやギリシャの神殿は遺跡となつてしまい、過去の遺物になっていきます。日本人には次世代へ上手に伝える知恵があり、もつといえ、伝える血が体内を流れているのですから、これまで伝承してきたこと、守ってきたことを軽んじて、時の流行や合理的、経済的といった観点から判断したり、外国の真似ごとをしたりしてはいけなと思うのです。

九月一日から三日にかけて八尾町で踊り歌われる「風の盆・おわら」は、豊作を祈ることから始まります。秋田県の西馬音内の盆踊りは祖先と共に踊り、霊を慰める目的があります。岐阜県白鳥町の盆踊りは産土神の社殿で、郡上八幡の盆踊は町の中で朝になるまで踊り明かします。これらには全国から多くの

人々が集まり、人で溢れかえっています。このような風景をテレビで見ている、私なりに感じることは、観光的な要素に重きを置きすぎて本来の姿や意味が薄らいでしまうのではないかと心配になります。そうなのは伝承されてきた意味がなくなつてしまっています。

民謡や民踊というものは、その土地の汗と生活の匂いのするものであり、その匂いを嗅ぐと日本人であるならば誰もが郷愁を感じるはずで、その心があると信じています。

伝承・伝誦されてきた事柄は、その形のみが伝えられてきたのではなく、そこに心も合わせて伝えられてきています。心が形になり、形が心を育くむものと考えます。この二つが揃ってはじめて正しく伝わるのではないのでしょうか。

いにしえの遠い時代から伝承、伝誦されたあらゆる文化を大切に受け継いで、いつまでも日本人らしさを忘れずに生活して参りたいものです。

祭 事 暦

高瀬稲荷社例祭

六月三十日午前十時より、末社「高瀬稲荷社」の例祭が斎行されました。

毎年、梅雨の時期に行われるお祭りですが、当日は好天に恵まれ、講員四十名参列のもと、厳粛に祭典が行われました。

続いて御本社にて「商売繁盛祈願祭」が行われ、高瀬稲荷講・講員一同の商売繁盛と職場の安全を祈願しました。



夏越の大祓

六月三十日午後三時、知らず知らずのうちに犯した罪穢を半年に一度祓い落として、元の清らかな心身にに戻り、続く半年も健全に過ごせるよう願う「夏越の大祓」が行われました。

百八十名の参列者と拝殿にて「大祓詞」を奉唱し、各人が「ひとかた」に罪穢を移しました。

その後、向拝に設けられた「茅の輪」をくぐり、心身を清浄にもどし、暑い夏を健康に乗り切れるよう祈りました。



除熱祭

土曜の三番に当たる七月二十一日午前十時より「除熱祭」が斎行され、日照りなどによる被害無く、農作物が順調に育つよう祈りました。

続いて南砺市野能原の「献穀田（奉耕者・築田敏裕氏）」に御幣を立て、順調に成育する稲を祓い清めました。

夕刻、氏有志による「熱おくり太鼓」が、町内を練り歩きました。

七夕祭並
技芸上達祈願祭

八月七日午後三時、七夕にあわせ織姫さまのはた織り・裁縫上手にあやかっつて、習い事が上達するよう祈願する「七夕祭並技芸上達祈願祭」が行われました。

祭典では七夕飾りが祓い清められ、参列者は書き記した願い事が叶うよう、心を込めてお参りしていました。



人形感謝祭

七月十四日午前十時より、古くなった人形に感謝し、神社へ納めるお祭り「人形感謝祭」が斎行されました。

本年度で十四回目を迎えた感謝祭には約五十名が参列し、子供の成長とともに使わなくなったたり壊れたりした「人形」や「ぬいぐるみ」に、思いの感謝と真心の言葉を捧げ、お別れしました。



高瀬忠魂碑慰霊祭

八月十六日午後四時、高瀬忠魂碑にて、「慰霊祭」が行われました。

神式と仏式、隔年で行われ、今年は約八十名が参列しました。祭壇には通常の神供品に加え、郷土産の野菜や果物、菓子等が供えられ、祝詞の奏上に続き、お国の為に尊い命を捧げられた、当地出征のご英霊七十八柱に、感謝の玉串を捧げました。



くにたまの会総会

七月十一日、昨年十一月七日に発足した「くにたまの会」の第一回総会が、出雲大社社務所にて開催されました。

「平成の大遷宮」が行われ、本格的に始動する平成二十五年度の活動計画や予算が協議されました。



くにたまの会

「大國主大神様」をお祀りする全国の神社が共に手を携え、御神徳の宣揚と斯道の発展、そして地域の活性化に貢献すると共に、御神徳に結ばれた氏子の交流や親睦を深めるべく発足された会。

全国一の宮会総会

八月二十八日、越後の地（新潟県）にて「全国一の宮会総会」が開催されました。

本年は越後国一の宮・彌彦神社で正式参拝の後、社務所広間にて、新木直人会長（賀茂御祖神社宮司）を議長に議事が進められました。

続いて「彌彦神社と弥彦競輪場の関わり」と題して、弥彦村村長・大谷良孝様、弥彦村公営競技事務所所長・熊木克也様より記念講演が行われました。



第十三回人形展

第一期会

七月十三日(土)～

十五日(月・祝)

本年も「人形展」が開催され、木彫や和紙・ガラス作家十四名の創作人形が展示されたほか、草月流富山県支部「秀抱会」による「いけばな」で会場が彩られ、期間中は大勢の人で賑わいました。

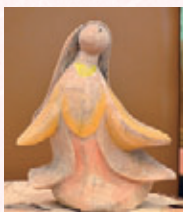


▽監 修
梅崎 親美
(秀抱)

▽写真提供
荒井 恒雄



牛島 辰馬 (南砺市)



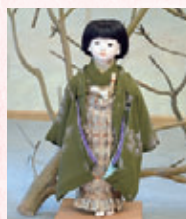
荒井 恒雄 (南砺市)



松本 昌子 (南砺市)



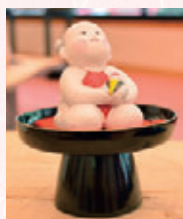
安達 陽子 (砺波市)



飛騨山静恵 (富山市)



嶋田 数男 (砺波市)



福島まゆみ (金沢市)



つるもりひろこ (野々市市)



長谷川創一 (南砺市)



川原 るみ (南砺市)



宮長 由紀 (射水市)



坪川瀬都子 (氷見市)



笹波 美恵 (高岡市)



小林 雅代 (富山市)



草月流富山県支部「秀抱会」会長 梅崎 秀鈴

第六十二回 神宮式年遷宮

二十年に一度の大祭、神宮式年遷宮は、正殿を始め御垣内のお建物全てを新造し、さらに殿内の御装束や神宝を新調して、神儀（御神体）を新宮へお遷し申し上げる、我が国で最も重要なお祭りのひとつです。

神宮の古伝では神宮式年遷宮が制度化されましたのは、天武天皇の御代のこととされ、第一回の式年遷宮が内宮で行われたのは、持統天皇四年（六九



〇）のことです。以来、戦国時代に中絶するという事態に見まわれながらも、千三百年にわたって続けられ、平成五年秋には第六十一回の神宮式年遷宮が古式のままに行われました。

掘立柱に萱の屋根が特徴の神宮の建築様式は、唯一神明造と呼ばれ、弥生時代にまで遡る高床式穀倉の姿を今に伝えています。檜の香も高いお建物が完成するまでには、ほぼ十年の歳月を要しますが、その間、御料木を伐り始めるに際してのお祭りを始め御造営の安全をお祈りするお祭りや旧神領民がこぞって参加する行事などが数多く行われます。

御造営と平行して、御装束神宝もまた古例に従って調製されます。御装束とは、正殿の内外を奉飾する御料の総称で、五百二十五種、千八十五点を数えます。これに対して、神宝とは調度の品々で、百八十九種、四百



九十一一点あります。伝統工芸の優れた技術を守り伝えるという重要な意味もありますが、御造営とともに式年遷宮に欠くことのできない大事業です。

内宮、外宮の両正宮と十四の別宮で遷宮の大祭は行われますが、かつて「皇家第一の重事、神宮無双の大典」とその意義が説かれましたように、皇室の大祭でありますと同時に、神宮にとりましては、その永遠性を実現する大いなる営みでもあるのです。

式年とは？

「式年」とは定まった年という意味で、神宮では二十年ごとにさまざまな祭をおこないながら、大御神さまが、今までお鎮まりになっておられたお社を新たに建て替えるのをはじめ、お着物や日用調度品なども全て新しくして、大御神さまに新殿へのお遷りを仰ぐ祭典「遷御」がおこなわれます。

「遷御の儀」

皇大神宮（内宮）

十月二日

豊受大神宮（外宮）

十月五日





第六十二回 神宮式年遷宮

「お白石持行事」

七月二十八日、伊勢の神宮で「お白石持行事」が行われ、南砺・砺波・小矢部地域より三百五十名が参加しました。

お白石を積んだ「奉曳車」を約二千名の「特別神領民」が曳き、神域に運び入れました。

各自白布にお白石を包み、真

新しい御正殿の御敷地に「自ら

の祈りを永

遠に託し」

お白石をお

納めしまし

た。



「お白石持行事」は

「お白石持行事」は、一連の遷宮諸行事のひとつであり、新しい御正殿の敷地に敷き詰める「お白石」を奉献する民俗行事。宮川より拾い集めた「お白石」を奉曳車・木そりに乗せ、沿道や川を練り進みます。

神域に入ってから、一人ひとりが白布に「お白石」を包み、遷宮後は立ち入ることの出来ない新宮の御垣内、真新しい御正殿の近くまで進み、持参した「お白石」を奉献する行事です。

お白石持行事は、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として選択され、また伊勢市の「無形民俗文化財」として指定されています。

参拝日誌抄

(六月・八月・敬称略)

「六月」

六日

(株)越路ガーデン

(境内剪定作業奉仕)

八日

氏子清掃奉仕(村総出)

十六日

戸出中学校野球部(必勝祈願)

二十三日

高瀬遺跡菖蒲まつり

実行委員会(献花祭)

三十日

高瀬稲荷講(商売繁盛祈願祭)

「七月」

一日(安全祈願)

建設業労働災害防止協会

富山県支部

富山県労働基準協会砺波支部

砺波労働基準監督署

林業木材製造業労働災害

防止協会砺波分会

タカハタ工業(株)

タカハタ工業(株)高和会

タカハタ工業(株)造作部会

タカハタ工業(株)新潟高和会

川田工業(株)

中越パッケージ(株)富山工場

中越パッケージ(株)砺波工場

四日

中越パッケージ(株)福光工場

中越パッケージ(株)伏木事業所

砺波高等学校野球部(必勝祈願)

六日

(株)ディエスケイ(安全祈願)

松本建設(株)(安全祈願)

七日

石岡敬夫(責任役員就任奉告)

砺波工業高等学校野球部(必勝祈願)

九日

石川県神社総代会(正式参拝)

十日

南砺福野高等学校野球部(必勝祈願)

「八月」

四日

富山県神社総代会砺波支部

(国家隆昌祈願祭)

【団体参拝のご案内】

安全祈願・必勝祈願・同窓会記念参拝等の各種祈願を随時受け付けております。

不明な点は社務所までお訪ね下さい。

電話〇七六三(八二)〇九三二

初穂料 一〇,〇〇〇円より

承ります。

新年初祈禱のご案内

～一年の計は元旦にあり～

福の神・結びの神様であります「大国主命（大国様）」をおまつりする高瀬神社では、新しい年が事故・災難や病氣・怪我無く、家族の「絆」が結ばれ、幸せであるよう祈願する「新年初祈禱」を行っております。年頭にあたりご家族お揃いでご祈禱をお受け下さい。

期 間

節分の頃までにご参拝下さい
午前八時三十分から午後四時三十分まで
（元旦は午前零時から午後六時頃まで）

受 付

ご祈禱入口からお入り下さい

・ 祈 禱 料

一件五千円より（ご志納願います）

ご祈禱をお受けになり、一年間清々しくお過ごし下さい。

まず大国様に初詣



戌の日（安産祈願）

平成25年

9月17・29日
10月11・23日
11月 4・16・28日
12月10・22日

平成26年

1月3・15・27日
2月8・20日
3月4・16・28日

腹帯のお祓いも行いますのでご持参下さい。

七五三詣（数え年）

本年は次の通りです。

○7歳（女子） 平成19年生
○5歳（男子） 平成21年生
○3歳（男女） 平成23年生

※10月1日より11月末日まで、毎日午前9時より午後4時30分まで随時受け付けております。

平成26年 厄年・身祝一覧

〔厄年〕数え年

	前 厄		本 厄		後 厄	
男	24歳	平成3年(未)	25歳	平成2年(午)	26歳	昭和64年(巳) 平成元年(巳)
	41歳	昭和49年(寅)	42歳	昭和48年(丑)	43歳	昭和47年(子)
			61歳	昭和29年(午)		
女	18歳	平成9年(丑)	19歳	平成8年(子)	20歳	平成7年(亥)
	32歳	昭和58年(亥)	33歳	昭和57年(戌)	34歳	昭和56年(酉)
			37歳	昭和53年(午)		

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。

〔身祝〕数え年

	年齢	生まれ年
還暦	61歳	昭和29年(午)
古希	70歳	昭和20年(酉)
喜寿	77歳	昭和13年(寅)
傘寿	80歳	昭和10年(亥)
米寿	88歳	昭和2年(卯)
卒寿	90歳	大正14年(丑)
白寿	99歳	大正5年(辰)

※男女ともに祝います。

平成二十六年「初詣献灯」の御案内

当神社では「初詣献灯」を実施致しております。

本行事は、初詣期間中に正参道両側に「提灯」を掲げ、来る新年が更なる輝かしい一年となるよう、尚一層の御神徳を授けて戴くことを願い奉納するものです。

一、「初詣献灯」は正月七日まで、境内等参拝者道筋に献灯いたします。

一、「初詣献灯」は、それぞれ正面に希望の芳名（会社・氏名等）を記入いたします。

一、献灯者の家内安全・商売繁盛の祈願祭を奉仕いたします。

一、献灯初穂料は、一基につき 金壱萬円御志納願います。

一、申込締切 十一月三十日までにお申込下さい。

※記載芳名 例（約八文字）

一、会社

南砺市 (株)高瀬
高瀬産業株式会社

二、個人

高瀬 高瀬太郎

奉納

○「植樹」椿二株

朝倉 一男殿

平成二十五年六月二十九日

・七福神



・玉の浦



○「御楯・御弓台」一対

元欄宜

齋藤 直己殿

平成二十五年六月三十日



○「金一封」氏子

寺西 孝志殿

平成二十五年八月九日

辞令

浦 泰宏

願により権欄宜を免ずる
(平成二十五年七月三十一日付)

中島 璃子

山本 美紅

事務員を命ずる

(平成二十五年八月一日付)

編集後記

私も参加させていただいた「白石持行事」では、まだ神様がおられない真新しい御正殿に深々と頭を下げる参加者の姿が多く見受けられました。「日本人の心」にふれる事が出来る、二十一年に一度の素晴らしい行事でした。



【表紙写真】

初 稲 穂

2013年10月1日 新バンケットホール OPEN!!



この地で二千年の歴史をもつ越中一宮 高瀬神社は、
縁結びの神様として多くの神前挙式を執り行い、
お二人の幸福を願ってきました。

この伝統ある神聖な儀式は変えることなく、
ウェディングのあり方を見直したいと思います。

ご結婚までのさまざまなご準備は、
一生に一度の、お二人にとってかけがえのない時間。
お二人の結びつきをより強く、人生をより豊かにする、
そんなお手伝いができるよう努めさせていただきます。
そして、世界にひとつだけの晴れの日が、

新たな家族のつながり、絆を深める場として、
一生の宝ものとなりますように…。



只今
御予約
受付中

10月1日にオープンする新バンケットホールでの結婚披露宴のご予約を承っています。お気軽にお問い合わせ、ご相談いただきますよう、お待ち申し上げます。

あなたの人生に、神社がある。越中高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社



検索